

【取組の概要】

景勝地・昇仙峡の玄関口に位置する長潭橋は、昇仙峡の象徴的な構造物であり、現存する最古のコンクリートアーチ道路橋として近代土木遺産に選定されている。しかし、道路幅員の不足や老朽化等の問題から、通行の安全確保を目的とした橋梁架替を行う必要が生じている。本事業は、地元住民を委員に含む長潭橋改修計画検討会により、旧橋を歩道橋として保全すると共に、観光資源及び土木遺産としての価値を最大限に活かした新橋設置及び周辺整備計画の実現を目指すものである。

【体制】

長潭橋改修計画検討会（平成21年より）

〈構成団体〉

学識経験者（山梨大学工学部）

地元関係者（地元地権者、昇仙峡観光協会、昇仙峡魅力づくり協議会、千代田地区・宮本地区・平瀬地区・上野地区・吉沢地区自治会長）、
甲府市、甲斐市、山梨県、



【取組内容】

長潭橋の紅葉



長潭橋・土木遺産プレート



長潭橋の狭小な幅員



検討会の様子①



検討会の様子②



検討会の様子③



フォトモンタージュ



パース



模型



[1] 取組経緯

- 大正 14 年に完成した長潭橋は、国指定名勝である御嶽昇仙峡随一の観光名所として、古くから人々に親しまれてきた。
- しかし道路幅員の不足により、昭和 56 年に現況拡幅等の要望があつて以降、地元等と調整を行いながら架替計画を検討してきたが、様々な事情により実現されず。
- 平成 20 年の健全性診断の結果、速やかに補修等を行う必要があると判定される。
- 平成 21 年より、長潭橋改修計画検討会を開催し、ルート設定、架替の方向性（旧橋撤去か、直下流に新橋設置か、下流に新橋設置か）、橋種選定等の計画の初期段階から地元住民等の関係者を交えた検討を進める。（平成 23 年まで）
- 平成 24 年度春の新規事業事前評価会議により事業実施が認められた。
- 上記の検討会において決定されたルート及び橋種等の基本事項を踏まえ、平成 25 年度に橋梁詳細設計を終えて、現在は用地交渉を行う予定である。

[2] 工夫した点

- 計画検討の判断材料として必要となる、老朽化の状態や各橋種の特徴等の基本事項は、事務局（山梨県）が情報をまとめて提供し、検討会各委員が適切な判断を行えるように努めた。
- 特に橋種選定に当たっては、各委員が完成イメージを容易に掴むことが出来るよう、模型やパース、フォトモンタージュ等を駆使して、完成図を視覚化させるよう努めた。
- 検討会の進行に当たっては、特定の委員ばかりが発言して意見に偏りが出ないように、各委員に個別に意見を求めるように努めた。

[3] 取組効果

- 長潭橋架替は 30 年にわたり地域の懸案となっていたが、地元住民を委員とした検討会を開催し、景観等に関しても真摯に取り組むことで、住民の信頼を得て架替を事業化に導くことが出来た。
- 甲府市の観光部局等も巻き込んで検討会を開催することで、周辺計画を含めた率直な意見を地元住民から引き出し、架替のみならず今後の観光振興にとっても有意義な議論が出来た。
- 検討会での議論の下、長潭橋は必要な補修を施した上で歩道橋として保全することとなった。
- 検討会での議論の下、新橋に関しては現橋の直下流に設置することとなり、橋種に関しては現橋との一貫性を重視して、上路式コンクリートアーチ橋とすることが決定された。

[4] 取組の今後の展開及び課題

《行政》・橋梁詳細設計を終え、今後は用地交渉、工事等を進め、可能な限り早急に新橋を完成させて通行の安全確保に努める。（道路管理者）

《地域住民》・新橋の架替については最大限の協力を行っていく。

[5] 事業費、財源とした補助事業等

- 特になし